

Project Generation

2003年のオープン以来、「プロジェクト」の実践による学びの場を提供している同志社ローム記念館。仲間と目標を共有し、高い成果を目指して取り組むプロセスの中で、自分達でつくり上げることの楽しさや喜びを知る。メンバーとの関係性により相互作用が生まれることやその重要性に気づく。プロジェクトや仲間のために、自分がどうふるまうべきか、何を発信すべきか、活動をとおして「使えるコミュカ」を身につける。

座学中心の講義からアクティブラーニングへ、ソフトウェアなどの開発現場におけるハッカソンの展開など、他者との関係を築きながら展開する「プロジェクト」的な活動は一般的になった。さまざまな社会の変化に柔軟に対応し、活躍できる人材を輩出すべく、「同志社ローム記念館」らしいプロジェクトを追求し、更なる発展をめざす。

2017年度 新世代プロジェクト始動!

同志社ローム記念館では、4月から3月の1年間のプロジェクトの活動期間として定められている。「1年」のプロジェクトだからこそ、思い切って取り組むことができる。連なりと新しさ、この春も新世代のアツイプロジェクトが走り出す。



RM206 アトリエフレームワークス

動く、触れる、音を出す…観客が参加することで、作品の意味や楽しさを感じるデジタルアート。イベントや各種展覧会などで注目されるようになったが、まだまだ遠い存在だ。創る人にとっても、観る人にとっても、もっと身近に感じられる作品づくりを目指す。

- ◆主な活動
 - ・幻想的な世界を「部屋」で表現するインタラクティブ・アート作品の制作
 - ・イベントと連動したインタラクティブ・アート作品の企画・制作
- ◆プロジェクト責任者
松谷容作 (同志社女子大学学芸学部助教)

RM306 えこ学@京田辺

この名前のプロジェクトも3年目。小学生向けの環境教育プログラムづくりに取り組んだこれまでの実績をもとに、今年は「京田辺」オリジナルのプログラムでの完成を目指す。まちを知り、環境を身近なものとして考える。子どもたちに新たな学びを提供したい。

- ◆主な活動
 - ・まちの環境を活かした京田辺市内小学校での環境教育授業の企画・運営
 - ・京田辺市内での環境活動イベントの開催
- ◆参加団体 京田辺市教育委員会
- ◆プロジェクト責任者
畠山 啓 (同志社女子大学現代社会学部助教)

RM307 きづのもり商品開発本部

「木津川市プロデュースプロジェクト」の取組と、2015年度の活動で開発した「きづのもり」マークの認知度も少しずつ向上、市内での活動でも応援してくれる人が増えた。木津川市の魅力を市内外に発信すべく、まちに根付いた活動で新しい商品・コンテンツの開発を目指す。

- ◆主な活動
 - ・木津川市の地域資源を活用した商品開発(市内小中学生との連携)と発信
 - ・新たな「まちの魅力案内」ホームページの企画・開発
- ◆参加団体 木津川市教育委員会
特定非営利活動法人 プロデュース・テクノロジー開発センター
- ◆プロジェクト責任者
飛龍志津子 (同志社大学生命医科学部准教授)

RM308 プロンティアット VR

VR技術を活用したプロジェクトは3期目。先輩たちから学び、自分達なりのやり方も見えてきた。新しいVRゲームの開発に挑み、そのプロセスを伝え続ける。始めたころ、技術を学ぶことも難しかったこれまでの活動で実感した課題と楽しさ、VRというフロンティアにおける先駆者として、VR開発者のロールモデルを目指す。

- ◆主な活動
 - ・Oculus Riftを用いたVRゲームの企画・開発
 - ・Webサイトによるゲーム開発記録やVR技術の公開
- ◆参加団体 京田辺市教育委員会
- ◆プロジェクト責任者
大久保雅史 (同志社大学理工学部教授)

企業の 視点を 知る

短期間のチャレンジプロジェクト

1年間という期間で取り組むプロジェクトに加え、2017年度は企業の持つ課題に、企業人とともに取り組む数か月間のプロジェクトを展開する。

企業としての社会の捉え方や取り組む課題を知り、ともに課題解決に挑むこの企画。短期間でのプロジェクトだからこそ、深く考える集中力とスピードが求められる。学部や学科、学年などでの参加条件はなく、多様なメンバーによるプロジェクトを展開予定。スキルや経験を活かし、ぜひチャレンジしてほしい。

詳しい内容は、順次公開予定のWebサイトやポスターでチェック。



OMRON オムロン株式会社

京阪奈イノベーションセンタ センシング研究開発センタとの連携によるプロジェクト。センシング技術を駆使して開発された製品をもとに、「未来社会に貢献する技術 (<http://www.omron.co.jp/innovation/>)」の活用を考える。



ROHM ローム株式会社

自動車や家電やIT機器など、私たちの生活を支えるさまざまな製品に不可欠な半導体。その技術や活用、発信を考えるプロジェクトを同志社ローム記念館の恒例イベント「ロームフェア」との連動企画で展開予定。

Pick up!

プレゼンテーションとは？

「マイクロソフトエバンジェリスト 澤 円が教える～プレゼンの極意～」

2017年1月16日 (月) 12:20～14:00



同志社ローム記念館プロジェクトでは、年2回、自分達の活動や成果を伝える報告会が開催される。9月に開催された中間報告会では、どのチームも、伝えたいこと、伝えるべきことがしっかり評価者に伝え切れていなかったという反省点を受け、スタジオZeroが企画したが、今回のプレゼンテーション勉強会だ。

より多くの学生に学んでもらおうと、劇場空間での公開形式とし、日本マイクロソフト株式会社マイクロソフトテクノロジーセンター センター長の澤 円氏を講師に招いて開催された。

プレゼンテーションの構成や手法だけでなく、なぜ伝えるのか、誰に伝えるのか、プレゼンテーションによってどんな結果を生み出したいのか、プレゼンテーションを取り巻く幅広い内容の講演に、参加者はメモを片手に熱心に聞き入った。

ごあいさつ

同志社ローム記念館プロジェクト運営委員会委員長
竹廣 良司 (同志社大学 経済学部教授)



このたび、大久保雅史先生から同志社ローム記念館プロジェクト運営委員長を引き継ぎさせていただくことになりました。ローム記念館プロジェクトの始動当初から関わってまいりましたが、このたび運営委員長を務めさせていただくことになり、身の引き締まる思いです。

2013年度の同志社大学文系学部の今出川移転を機に、経済学部教員の私は京田辺との関わりが少し低くなってしまいました。しかし、ローム記念館プロジェクトのことは常に気がかりで、少し距離を置いたことで気づいたこともあります。今後、学生諸君や運営に関わっていただく皆さんとも、さまざまな思いを共有しながら、新たな挑戦にも取り組んでいきたいと考えていますが、まずは学生諸君に顔を覚えてもらうことが最初の課題です。

運営委員やワーキンググループ委員の先生方、事務局の皆さまには、これまで以上にご協力いただきますようお願いいたします。ローム株式会社をはじめとする企業や地域の皆さまにも、引き続きお力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。



「ウルシ×○○[japan] productsの開発」

10/18～1/10 毎週火曜日 17:00～18:30

第6期目となる今回のテーマは「新しいウルシ商品の開発」。

漆のアート作品を数多く発表されている榎本さや香氏を講師としてお招きし、日本を代表する工芸技術である漆工芸の技法を学びながら、その特性を活かしたユニークな商品を企画、全11回のプログラムで商品化を目指す。商品企画に関わるプロセスは同志社大学理工学部の土屋誠司准教授、今回使用する漆の代替塗料カシューの取り扱いについてはカシュー株式会社の吉川圭輔氏にそれぞれご指導いただいた。

同志社大学両校地をはじめ、同志社女子大学、同志社国際高等学校から集まった参加者は24名。4つのグループに分かれて始まった活動では、学部や学年を超えたメンバーと活発に意見交換する様子や、特殊な塗料の扱いに苦戦しながらも協力して作業を進める様子が伺えた。

最終回となる合評会では各グループが工夫して試作品を展示し、審査員の前でプレゼン形式により発表を行った。作品の出来だけでなく、プロジェクト活動に必要なスケジューリングやチームワークなども評価され、Best [japan] productと特別賞が選考された。今回の経験を今後の活動の場でも活かしてもらいたい。

